

ムラヤー幸福論



稲作発祥の地。
若者たちの風景づくりが、
コミュニティの新しい絆を生み出す。

「ムラヤー」がつなぐ、人・自然・文化。

南城市では総合計画の指針として「ムラヤーを主体とした、自然と文化を継承する福寿のまちづくり」を掲げています。

琉球王国時代に各ムラを管理するために設置された行政機関を、ムラヤーと呼んでいました。本市では、区や自治会の公民館が、そのムラヤーに相当する地域づくりの重要な拠点と位置づけており、公民館を拠点として住みよい地域づくりを行う地域コミュニティ全体を「ムラヤー」と表現しています。

自然豊かな田園風景や地域のつながりを大切にする南城市らしいまちづくりは、行政だけではなく、地域住民の思いが反映されていることが重要です。ムラヤーが主体的にまちづくりに関わっていくことで、地元に対する地域住民の誇りや愛着、ユイマール(助け合い)の心が反映されていくと考えています。

ここでは、各ムラヤーが展開しているユニークな活動例を紹介し、南城市の魅力や未来像を読み取っていただきたいと思います。

Nanjo City's comprehensive plan is centered around the "Muraya Principle," where the community center is the focal point for the neighborhood with the purpose of creating "a town of well-being, where nature and culture are carried forward through the generations."

なかんだかり 仲村渠稲作会

南城市内にある行政区のうちの一つ、仲村渠(なかんだかり)区は稲作発祥の伝説が残る地域。伝説の舞台である受水走水(ウキンジュハインジュ)などの聖地で、祈りの行事が今も続けられています。また稲作地域の伝統行事として、綱曳きも受け継がれてきました。

しかし戦後長らく、稲作文化は途絶えたままでした。稲作発祥の地で稲作の風景がなく、しかし綱曳きなどの伝統文化は受け継がれているという、複雑な矛盾。綱づくりに使う藁は、他の地域から購入していました。

そんな中、2017年から稲作の復活に挑んでいるのが「仲村渠稲作会」です。「まずは、綱曳きに使う藁の自給自足が目標でした」

立ち上げ当初の会長・大城洋介さんは当時を振り返ります。「メンバーのほとんどは稲作の素人。自治会の壮年部や高齢者からアドバイスをいただきながら活動を進めてきました。結果的に、世代を超えた交流が生まれてきたんです」

寄付を募り、土地を開墾し、2018年3月ようやく田植えにこぎつけ、6月には初めての収穫を実現しました。☺



左/仲村渠区で行われる伝統の綱引き。上/稲作発祥の伝説が残る聖地「受水走水」(ウキンジュハインジュ)の水田。

Nakandakari is the site where, legend has it, rice cultivation began. Yet, rice farming had been discontinued. The Nakandakari Rice Cultivation Group is working to revive the practice. In addition, they hope to become self-sufficient in straw for the traditional tug of war.

現在、田植えや収穫には地域の人々が集い、交流の場となっています。一方で、立ち上げ当初には予想していなかった効果も生まれているといいます。

「地域の活性化は住民や出身者でしか担えないものだと考えていました。しかし、活動を続けていくうちに、稲作に興味を持つ区外の方がメンバーに加わり、自治会の行事等にも参加するようになったんです。仲村渠を好きになり、ひいては移住を決断し、コミュニティの担い手になる…。稲作会は区外の方が地域に溶け込む受け皿になっていると思います」

少子高齢化の波が押し寄せるコミュニティにおいて、歴史文化を活かした魅力的な活動が、移住や関係人口を呼び込んでいる稲作会。現会長の神谷丈維さんは今後について意気込みを語ります。

「コロナ禍で各行事が中止になる中、稲作は継続してきました。2023年の今年からは行事も復活してくると思います。稲作会が地域活動の再開をけん引できれば、来年には100%仲村渠産の藁で作った網曳きを実現したいと思います」



稲刈りのとき。収穫の喜びを区民で分かち合う。至福の空間が広がる。

ムラヤーを中心とした活動の例



伝統芸能

各地で特色ある伝統文化が受け継がれている。旧盆翌日の「ヌーパレー」という行事では、無縁仏を地域で供養し、五穀豊穡を願う。知名区では特設ステージを組み、地域に伝わる舞踊や組踊など、30近くの演目を区民が演じる。



環境美化

環境美化は各地の区・自治会で活発に行われている。特に花植え活動は地域を明るくし、世代を超えた交流が生まれる。「つはこ花咲かす会」では、雑草が繁茂していた広場にコスモスを植えて、地域の憩いの場として蘇らせた。

The Nakandakari Rice Cultivation Group have revitalized activity within the community and also attracted people from outside the area.



健康・福祉

つきしろ区や大里グリーンタウンでは、高齢者の介護予防として自治会が主体でミニデイサービスを実施している。また、食育体験や健康づくりに関する講演会などを開催し、住民への健康意識の向上をはかっている。



地域活性化

小谷区では年末から年明けにかけて、「美ら石坂」という石段をイルミネーションで彩り、市内外から多くの観覧者が訪れる。イルミネーションはすべて区民の手作りで、準備は子どもから大人まで、世代間交流の機会となっている。

There are 70 neighborhood associations in Nanjo City. Many of them are engaged in unique activities such as traditional performing arts, environmental beautification, health and welfare, and community revitalization, fostering community attachment and a spirit of "Yui Maaru" (mutual help).